

## 花ルネッサンス

——花も応えてくれる——

吉 川 悟

(株式会社花のヤマト 代表取締役)



### 〔はじめに〕

弊社は、職業分類では花卉（き）販売に入ります。花卉とは、切花・園芸類・観賞用植物として流通されるものをいいます。

創業は昭和29年（1954年）で、故父親が川反五丁目橋角に店舗を構えてから、65年を迎えることができました。

父は、旧満州国の奉天憲兵詰所長で終戦を迎え、日本に戻ってきました。その後、花のヤマトを創業するのですが、なぜ屋号が花のヤマトなのかは明確には告げられませんでした。

私が、小学生の頃、父親に三菱レオという軽三輪車によく乗せてもらいました。また、中学生の頃には、少しずつではありますが周囲にも花屋さんが増えてきたように思います。

父が秋田県生花商組合を設立したのもその頃です。当時は16歳で軽四輪の免許が取得できる制度がありましたので、高校生の時には免許を取得し、軽四輪で配達を楽しみました。

### 〔花の魅力〕

東京の仕入先の紹介で、日本橋の老舗花店に住み込み修業を始め、仕入や花束製作、配達等の傍ら、教室ではいけばな、さらに当時始まったばかりのフラワーデザインを習得しましたが、有楽町・銀座とお金も無いのに酒飲み歩き過ぎまして、先輩には叱られていました。

その後、秋田に戻り店を手伝うのですが、当時の川反は、仙台南分町に次ぐ繁華街と言われていたので、土地柄酒も強くなった訳であります。黄昏どきになると、きれいなお姉さん達が店の前を通って行きました…。

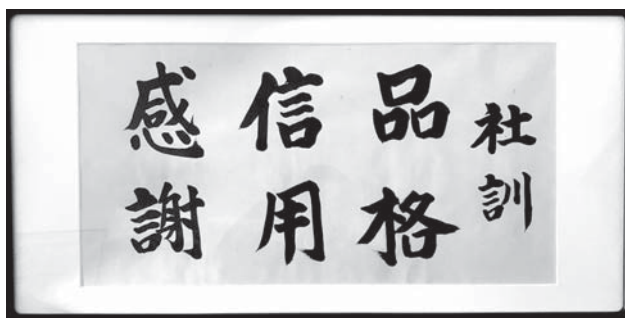
当時の仕事は、仕入れした切花の水あげ、いけばな花材の収集、鉢物のメンテナンス、結婚宴会場への納品、葬儀や法事の供花、各イベントの装花、会社やお店の活け込み等、様々ありました。

川反本店もやや狭く、以前よりもう少し広い場所の確保をと考えておりましたので、平成7年4月に、横山金足線広面に新本店をオープンいたしました。自ずと社員も増えていきました。

会長である父が自筆の社訓を休憩室に掛けてくれましたが、翌平成8年1月に他界しました。創業者の遺言だったのでしょうか？



(現在の店舗外観)



(壁に掛けられている社訓)

#### 花マイスター秋田会設立趣意書

#### 〔花屋の国家試験〕

花屋（フローリスト）にも、技術とデザインの実技試験と学科試験があり、国家認定のフラワー装飾技能検定試験が、毎年全国一斉に実施されております。

この資格には、3級から1級までありますが、難関を勝ち抜いた県内の1級フラワー装飾技能士を会員とした「花マイスター秋田会」を平成25年9月に設立いたしました。現在県内16名の会員で構成しており、様々な行事に参画しております。

「最後に頼りになるのは自分自身」です。若いフローリストの皆さんには是非技能士の資格を取り、花マイスターを目指して欲しいものです。

#### 花マイスター秋田会

名称「花マイスター秋田会」とは、フラワー装飾技能検定秋田県協議会と秋田県フラワー装飾技能士会を総称するものであり、秋田県内の国家認定1級フラワー装飾技能士資格者を会員とし、フラワー装飾技能検定制度の普及推進と技能士の技能及び知識の向上と社会的、経済的地位の向上を図るとともに、フラワー装飾技能士が正当に評価される社会の実現を目指し、果敢に行動を開始する必要があると考えます。

ここに、県内の花マイスターが集結し、相互の経験交流と情報の共有を図り、研鑽の場とするとともに成果につながる実効性のある活動を推進し、展開する。

## 〔Mothers Day〕

全国の小売店では、1年で一番の繁忙期は「母の日」であります。

直近のアンケート結果によると、お客様が母の日商品を選んだ一番のポイントは「デザイン」が首位。続いて「価格」「色」となっています。費用は5,000～10,000円が最も多く、続いて3,000円台、4,000円台の順でした。

勿論、贈り物としては心を込めてカーネーション1本でもいいですし、還暦祝いに合わせ赤バラ60本を贈るお客様もおります。

そしてこの時期はカーネーションやバラなど、一時的に大きな需要があり、これに国内産地が対応できなくなっていることも輸入品増加の一因となっております。主な輸入先は、バラはケニア、エチオピア。カーネーションはコロンビアなどです。

輸入品も良質になってきていますが、できれば質の良い形の良い国産品を推奨しております。

## 〔花の力〕

現在、花卉の生産品などは生産者の高齢化や天候不順の影響から品薄状態が続く場合もあります。また、花卉業界一般でも高齢化、後継者不足、社会生活の変化に伴う需要の減少等の困難な環境に置かれています。

今後花卉業界をめぐる環境も大きな変革を迎えていくことと予想されます。しかしながら、AIなどの新しい技術が進化しようとも、人の役割が完全に無くなることはないのが花卉業界と考えます。

人生100年時代。豊かな人生を送るためにも、時代はその時代に生きる人々の知恵と努力と情熱によって変わることと信じ、力を注いでいきたいと思います。



## 会 社 概 要

|           |                          |         |                                                                         |
|-----------|--------------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 会 社 名   | 株式会社花のヤマト                | 5 F A X | 018-835-8714                                                            |
| 2 代 表 者 名 | 代表取締役 吉川 悟               | 6 U R L | <a href="https://www.hananoyamato.com">https://www.hananoyamato.com</a> |
| 3 所 在 地   | 〒010-0041<br>秋田市広面堤敷53-1 | 7 創 業   | 1954 (昭和29) 年                                                           |
| 4 T E L   | 018-834-8700             | 8 資 本 金 | 1,000万円                                                                 |
|           |                          | 9 従 業 員 | 14名 (2019年11月末現在)                                                       |